

令和6年度

全日本ジュニアバドミントン選手権大会横浜市予選会(内田杯)

主催 横浜市バドミントン協会

主管 横浜市中学校体育連盟 バドミントン競技専門部

日程・場所

令和6年8月1日(木) 横浜武道館 女子シングルス・ダブルス

令和6年8月2日(金) 横浜武道館 男子シングルス・ダブルス

令和6年7月24日

横浜市内 中学校長 様
バドミントン部顧問 様
クラブチーム代表者 様

横浜市バドミントン協会 会長 黒崎 二男

令和6年度 全日本ジュニアバドミントン選手権大会横浜市予選会 (内田杯) 要項 **改訂版**

- 主催 横浜市バドミントン協会
- 主管 横浜市中学校体育連盟 バドミントン競技専門部
- 日時 令和6年 8月1日(木) 女子個人戦 **8:30開場** 9:00受付完了 9:30試合開始
8月2日(金) 男子個人戦 **8:30開場** 9:00受付完了 9:30試合開始
- 会場 横浜武道館
- 参加資格 横浜市内中学校に在籍、または神奈川県中学校体育連盟に登録した横浜市内のクラブチームに所属する1, 2年生。ただし、バドミントン協会に登録している者。協会登録は7月16日(火)までに行うこと。各学校男女共にシングルス1名、ダブルス1組以内。
※ダブルスでの出場枠を放棄し、シングルス2名で参加することも可とする。
- 使用球 水鳥球(2種検定合格球3番)
- 参加費 シングルス1人につき1000円、ダブルス1組につき2000円。
- 種目 個人戦 男女シングルス及びダブルス
- 競技形式 ①トーナメント方式で行う。
②現行(公財)日本バドミントン協会競技規則に準じて競技を行う。
③15点マッチ2ゲーム先取延長ゲーム有りで行う。
※8点で選手の求めに応じてインターバルを取る。
④練習時間は、初回戦は3分以内、それ以降は2分以内で行う。

変更点

10. 参加申し込み

- 7月16日(火)17時までに、所定のGoogleフォームで行う。
右記QRコードを読み取るか、
下記URLからアクセスし、
必要事項を入力する。

※大会当日、協会登録証明書類に出場選手がわかるように
マーカーなどで印をつけて会場に持参する。



男子申込



女子申込

男子申し込みフォームURL：<https://docs.google.com/forms/d/1Jr5yh9Q-bR1JymsGk8bYALie-3MjpkYgg1DNNTzivwQ/edit>

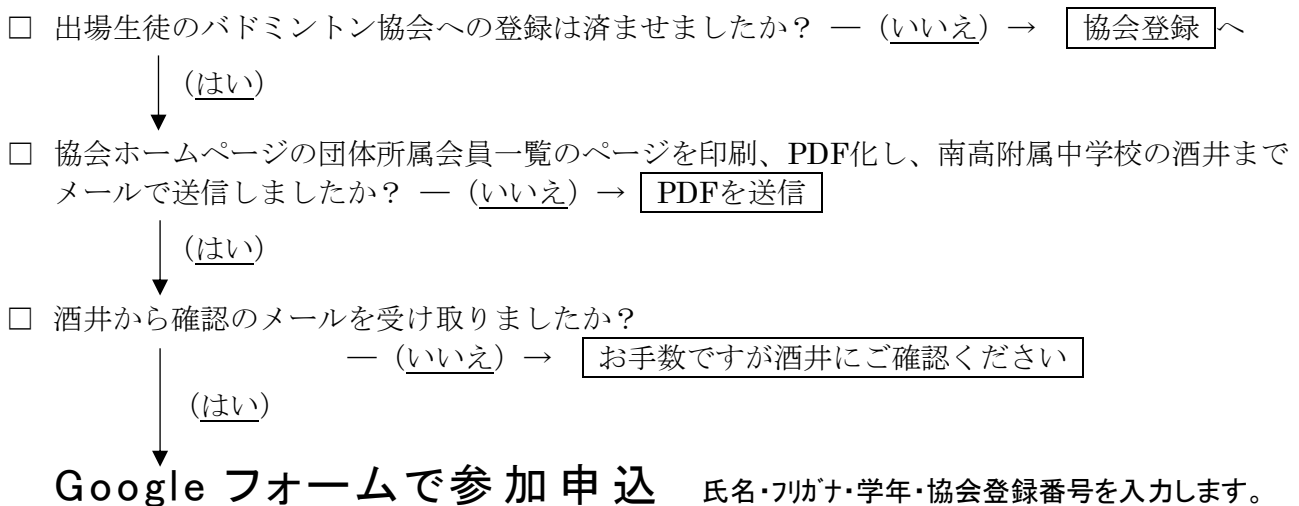
女子申し込みフォームURL：https://docs.google.com/forms/d/1oSud0skcUA-RR1NWif44KX0X11tz2MZ_I8YsrCPNA/edit

11. 組み合わせ会議

- 組み合わせは市専門部役員で抽選会を行う。
- 組み合わせは大会シード規定に基づいてシードを決定する。
- 組み合わせは組み合わせ規定に基づいて行う。

12. 表彰 5位までを表彰する。なお、男女とも上位選手（4名、4組）は神奈川県予選への参加資格を得る。また、シングルスにおいては、県予選男女上位2名は9月に開催される「全日本ジュニアバドミントン選手権大会」への参加資格を得る。
 ※1, 2年生で関東大会の個人戦に出場する選手は関東大会の日程に関わらず、横浜市予選を免除して神奈川県予選への参加資格を得る。また、関東大会の団体戦出場選手の横浜市予選の免除に関しては、参加資格を得るか、得ないかを市専門部役員で検討する。
 ※横浜市予選に出場する場合は代表権を放棄し、予選に参加する。
 ※これに伴い、上位大会への参加資格の数は変動する。
13. その他 ○生徒の服装・監督コーチの服装については、総会冊子をご覧ください。
 ○横浜武道館は空調設備のある会場です。
 監督コーチの服装の特例はありませんので、予めご理解ください。
 ○大会の開催を中止する場合
 ・緊急事態宣言が出されて、その対象地域となった場合
 ・横浜市教育委員会から開催中止の指示をされた場合
 ・横浜市中学校体育連盟バドミントン専門部が開催できないと判断した場合
 ・台風などの特別警報が発令された場合や計画運休が発表された場合
 ※大会の中止は専門部ホームページにてお知らせします。
 ○永田中学校 川島 連絡先：hi06-kawashima@city.yokohama.jp

申込フローチャート



※協会主催の大会となります。協会登録を行っていない選手は参加できません。
 ※シングルス2名で参加する場合はダブルスの欄に第2シングルスの選手を記入すること。

7月16日(火) 17時〆切

担当
 横浜市立名瀬中学校
 角田淳
 TEL045-812-1601

横浜市中学校バドミントン 競技・審判上の注意及び確認事項 (横浜市中学校バドミントン競技ルールブック)

1. 運営規程・競技規則について

(公財)日本バドミントン協会競技規則書・同大会運営規程・同公認審判員規程を原則とする。大会前には必ず上記規則書や「横浜市中学校バドミントン競技ルールブック」(本書面)も熟読してください。

2. 大会使用シャトルについて

横浜市中学校体育連盟が主催(共催大会を含む)する大会においては、(公財)日本バドミントン協会第2種検定合格球以上を使用する。なお、4月～9月までの大会ではスピード番号3番を使用し、10月から3月までの大会ではスピード番号4番を使用する。

※但し、空調がない会場で8月に大会を行う場合はスピード番号2番を使用する場合がある。

※異常気象等で気温とスピード番号が不適合であると専門部が判断した場合には上記指定番号と異なるものを使用する場合がある。

3. 事故タイムについて

試合中に事故(鼻血、捻挫、マメがつぶれたなどの外傷的なものに限る)が起きた時には、競技役員長または、競技審判長の判断で、その試合中一度だけ10分以内の治療を行うことができる。ただし、治療はコートを離れずに行うこととする。その際選手の治療対応ができるのは、体育館アリーナに入ることが許可された者2名以内とする。(横浜市中学校体育連盟バドミントン専門部規程)

4. 棄権について

(1) 次の場合は棄権とみなす。

① 何の連絡もなく選手が定刻に集合しなかったとき。

② けがなどで試合続行が不可能なとき。

③ 主審及び競技役員長・競技審判長の判定に服さないとき。

(2) 中学生らしくなく、運動に適さない身なり、服装をしているものについては、競技役員長、競技審判長の判断により、棄権とすることがある。

5. 選手の服装について

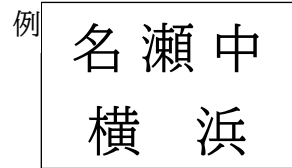
(1) 選手の服装は公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規定第4章【競技者及び試合】第23条に基づいたものとし、Tシャツや体操着(上衣・下衣)での参加はできないものとする。(第23条 プレーヤーは、相手または観客に不快な感じを与えないように、競技中、運動用ウェア、シューズを着用する。着衣の色またはその組み合わせはどのようなものでもよいが、色付き着衣を使用する場合は競技の品位を保つために本会の審査合格品とする。…公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規定第4章より抜粋)

(2) 上記に併せて「関東記念Tシャツ」は、試合に出場できる服装として認める。ただし、背文字をつけなければならない。(ゼッケンは4カ所固定)

(3) ウェアのメーカー名やメーカーロゴ以外の企業名や他校(他チーム)名の入った衣類を着用してのコート内での試合前の練習及び試合はできない。ユニホームはゼッケン等で隠すことができる場合は着用できる。

(4) 防汗や整髪のために、ハチマキの使用は認めるが、体裁よく結ぶこと。

- (5) 上衣の背面中央部には、必ず学校名と市町村名のマークを付けること。例のように、校名（チーム名）及び市町村名を日本文字（ローマ字不可。但し、登録チーム名にアルファベットが含まれる場合はこの限りではないものとする。）楷書で明記する。なお、上衣背面に直接プリントする場合は、校名（チーム名）及び市町村名がわかる色で区別できること。また、ゼッケン使用の場合は白の布地で縦 20 cm、横 30 cmの大きさを基準とする。角の4カ所を固定すること。



※なお、文字列各行の大きさは、高さ 6 cm～10 cm、横 30 cm以内の 2 行までとし、見やすくすること。

- (6) 上衣の前面には、複数行の文字列の表示と、前番号の表示を認める。複数行の文字列は、高さ 10 cm、横 40 cmの範囲内に納まるものとし、学校名（チーム名）または学校名（チーム名）の一般的略称に限る。文字列に校章を含めてもよい。



チーム名、学校名、学校名の一般的な略称
(複数行・装飾文字・複数色可、関連ロゴ)



- (7) 前番号は、上衣前面の胸下に背番号と同一の番号をつけるものとする。大きさは高さ 8 cm以内、一桁横 4 cm以内年、二桁以内とする。

- (8) 儀礼（開閉会式、試合入退場、試合開始前・試合後挨拶時）の際は、上衣を下衣の中に入れること。
※選手は、開閉会式時、試合時に服装を整えてからアリーナ（コート）に入ること。また、試合終了後は服装を整えて挨拶をすること。

6. 試合前の練習について

- (1) 個人戦では、初回戦は3分以内、2回戦以降は2分以内の練習を行うことができる。
(3分後（2分後）に試合が始められるよう主審は30秒前を目処に練習終了と試合開始準備を指示する。)
- (2) 個人戦でのダブルスの練習はパートナー同士で、シングルの練習は対戦相手同士で行うものとする。
- (3) 団体戦では、初回戦5分以内、2回戦以降は3分以内の練習を行うことができる。
(5分後（3分後）に試合が始められるよう主審は30秒前を目処に練習終了と試合開始準備を指示する。)
- (4) 団体戦の練習はトーナメントにおいて左もしくは上に記載されているチームから先に行う。(試合が2コートで展開される場合は、各チームがそれぞれ1コートずつ使用し、同時に練習を行う。)

7. プレー中のマナーについて

- (1) 汗拭きや靴ひもの締め直し、ラケットの交換などは、必ず主審の許可を得てから行うこと。
- (2) 交換用のラケット・タオルなど必要な荷物は、試合開始前に主審横の所定の位置に置いておくこと。
- (3) 試合中の自然発生的な発声及び、パートナー間の意思の疎通のための発声以外の過度の威圧及び審判・相手選手のジャッジ等を惑わす発声は禁止する。
- (4) 相手に対して威嚇と思われる行為に対しては、1回目警告(場合によってはレット)・2回目以降フォルトとする。(やじ・威嚇・ネットを叩く・ネットを下げる・ラケットを突きつけるなどの行為等も含む)また、警告を受けた選手のパートナー、対戦相手選手も同様である。
- (5) シャトルの渡し方、ネットの取り合いなど、マナー面で留意する。

- (6) ゲーム中のインターバル(いずれかのサイドが11点に達したとき)は60秒以内とし、選手はコートサイドを離れてはならない。ゲーム間のインターバルは120秒以内とし、選手はコートを離れることができる。(神奈川県中学校体育連盟バドミントン専門部規定より)
- (7) プレーヤーが、プレーを故意に遅らせたり、中断したりしないようにする。不必要にコート内を歩き回ったり、パートナーとの意思疎通をしたりすることは許されない。
(汗拭き・給水・モップ等は、主審が必要であると判断した場合は素早く行う。)

8. 監督・コーチについて

- (1) コーチングはインプレー以外のときに着席して行い、コートのそばに立ってはいけない。監督・コーチがプレーヤーの注意をそらしたり、プレーヤーを混乱させたりしてはならない。(選手、監督・コーチはアドバイスのためにプレーを遅らせてはならない。)
- (2) 監督・コーチは、試合中に怒鳴り相手チームを威嚇する、インターバルでもないのに試合進行を妨げるアドバイスをする等不品行な態度を取ってはいけない。
著しく相手チームに不利であると大会運営本部が判断した場合、1回目警告(場合によってはレット)・2回目以降フォルトとする、また、改善が見られない場合は、大会運営本部の判断で会場外へ退場させる場合もある。
- (3) ベンチに入ることができるのは、~~※~~ I Dカード(許可証)を携帯している2名以内とする。
(同時に、2面以上で試合が行われている場合も同様である。男子の許可証で女子の試合のベンチに入ることもしない(その逆も同様)。)
※会場内では、I Dカード(許可証)を見える位置に携帯すること。(I Dを携帯せずにアリーナへ入ることは保安上の理由から禁止する。)
※試合ごとに監督またはコーチが変わることは可能とする。(ここでいう試合(マッチ)とは、個人戦は1選手(1組)の開始から終了まで、団体戦は対戦チームとのすべての試合を指す。)

注 I Dカード(許可書)は、市バドミントン専門部より総会にて1年間有効のものを各学校・チームへ男女それぞれ2名分(監督、コーチ各1名)配付する。監督及びコーチは、各大会にてこのI Dカード携帯する。

- (4) ベンチの移動は、インプレー中に行わないこと。
- (5) ベンチに入る監督・コーチはマッチ(試合)にふさわしい服装で臨むこと。
ユニフォーム・シャツ(襟付き)・ポロシャツ・ブラウス、長ズボン・スカートとし、ジーンズやビーチスタイル、バミューダ、ショーツ、スリッパとサンダルは禁止とする。また、上衣または下衣に企業名(ウェアのメーカー名やロゴは除く)や他校名、他チーム名の入った衣類を着用してベンチに入ることにはできないものとする。
なお、その適否判断は競技役員長・競技審判長に委ねることとする。
※夏場の空調の無い体育館においては、長ズボンを着用しなくてもよい。
- (6) I Dカード(許可証)を携帯している地域指導者は、顧問とともにベンチ入りし、コーチングを行うことができる。
(但し、同校選手の試合が複数同時に行われている場合は別とする)
- (7) 監督、コーチ、部活動指導員または地域指導者は、横浜市の中学校生徒を基盤とした学校教育活動下での大会であることを認識し、その歴史的な意義や品位を保つために、服装等を整えるとともに、選手の健康管理と掌握に努め、大会運営に協力すること。なお、試合時には、大会本部から発行されたI Dカード(許可証)を必ず着用すること。

9. 応援について

- (1) 応援については、声と拍手を中心として、鳴り物(うちわ、メガホン等)は使用してはならない。やじ・威嚇などは厳に慎むこと。
- (2) 審判のジャッジやコールが聞こえなくなるような応援をしてはならない。
- (3) インプレー中は行わないこと。サーブに合わせての掛け声などはかけてはいけない。
- (4) 相手を貶めるような応援をしてはいけない。(サーブミスに対して「ナイスサーブ」など)

10. 審判について

- (1) 市大会本戦における審判は原則公認審判員、各学校顧問もしくは同等の権限を有するものまたは横浜市中学校体育連盟バドミントン専門部が認めたものを行う。
※チームのメンバー数の関係等により監督、コーチ以外の成人（保護者等）が審判を行う必要がある場合、大会本部が発行した審判員IDを携帯した上でアリーナへ入ることを認める。（審判員IDは監督またはコーチが本部にて受け取る。）
- (2) サービスジャッジは得点板生徒が兼ねて行う。但し、得点板生徒が行うジャッジは【トゥ・ハイのみ】とし、フォルトがあった場合はどちらかの手をあげながら【フォルト】とコールする。なお、トゥ・ハイのジャッジは主審も行うことができることとする。（横浜市中学校体育連盟バドミントン専門部規程）
- (3) 審判割り当ては大会ごとに設定するが、原則各コートの1試合目（タイムテーブル1段目）は本部から指定した選手（チーム）、それ以降は前試合での敗者が行うものとする。

11. 熱中症対策

横浜市中学校体育連盟バドミントン専門部が運営する大会及び、その予選会において、【横浜市立学校熱中症ガイドライン】に基づいて下記の対策を行う。

- (1) 試合時間の短縮
 - ・WBG T計において31℃以上になった場合15点3ゲームマッチ、延長ゲーム無しで試合を行う。また、その際は8点で1、2ゲームではインターバル、ファイナルゲームではコートチェンジを行う。
- (2) 熱中症を防ぐための対策
 - ・審判は、必要に応じて積極的に給水タイムを取る。（目安としてインターバルから10分程度）
 - ・WBG T計において31℃以上になることが予測される場合の対策。暗幕のみをしめて窓は開けた状態で試合を行うなど、試合に大きな支障が出ない範囲で換気を行いながら試合を行う。
 - ・会場責任者、運営責任者は水分補給を促すアナウンスを適宜行う。

12. その他

- (1) 撮影について
 - ・大会（試合）の進行中に体育館フロアでビデオや写真の撮影をしてはいけない。（但し、学校会場など常設の観客席のない会場では、各会場に設けられた保護者席からの撮影はできるものとする。）
 - ・応援席からの撮影はできるが、フラッシュ等はプレーの妨げとなるので使わないこと。
 - ・撮影は、自校の関係者（保護者、顧問、生徒）が、自校の選手をとる場合のみとする。（撮影した記録については、肖像権の侵害とならないよう取り扱いに十分注意する。）
 - ・撮影した写真、動画をSNS等のインターネット上に掲載することは禁止する。
- (2) 会場への菓子類、カン、ビン類の持参を禁止する。
※保護者に関しても、ガム等を食べながら会場に入ることを禁止する。
- (3) 落とし物は大会終了後、1カ月を目安とし保存し、それ以降は処分する。
- (4) 会場校もしくは、市専門部役員からの特別なアナウンスが無い場合は、顧問、保護者の大会会場への車での来場は禁止する。また、顧問もしくは同等の権限を学校長から認められた者が必ず会場まで生徒を引率する。
- (5) 会場校となった学校は、どのような大会が行われているかの掲示を行い、校内で行われている大会の内容が明確になるように努める。

3F観客席図

保護者席は4ブロックどこでも座れます。
選手・監督・コーチ席に指定はありません。

